

Principal Correspondence

魁の都「水戸」に学ぶ子どもたちへ

6年生は卒業が近づいてきました。そこで、魁の都「水戸」に学ぶ子どもたちへ…。

水戸は「梅は春のさきがけ、水戸は天下のさきがけ」といわれるように、時代を切り開く、さきがけの人を多く輩出しているところです。日本で最初の小学校女教諭は「黒澤時子」という人ですが、水戸の出身。日本で最初の幼稚園教諭「豊田英雄子」も水戸の出身です。明治初頭、東京にできた師範学校に小学校ができたとき、さらに幼稚園ができたときにそれぞれ初めて赴任したと伝えられています。幼小一環教育を目指すリリーにとってこの先人たちが水戸出身であったことは勇気づけられる歴史です。

ちなみに、水戸からは日本初の看護師「曾我こうじ（漢字が難解で表示できません）」という女性があり、彼女は明治初頭にロンドンのナイチンゲール看護婦養成学校に留学しました（今はフローレンス・ナイチンゲール病院内に博物館があり、看護婦道を育成した苦難の歴史を見ることができます）。さらに日本初の飛行機の民間パイロット、武石浩玻の銅像は、水戸第一高校の構内に建っています。

リリーのモットーは「いつもあたたかく、いつもあたらしく。」ですが、この言葉を訳してみますと、” Always warmhearted, always progressive. “とあったところでしょうか？数年前当校の英語教師たちが苦勞して訳してくれました。

幼少期にリリーベール小学校で学んだ子ども達が自立し、社会の最先端で創造性を発揮するさきがけの人材として、リーダーシップをもって世の中に貢献してもらいたいと願っています。



Principal Correspondence

東京オリンピックがやってきます

1964年、私は小学4年生で東京オリンピックの聖火ランナーを水戸中央郵便局前で見ました。それから2週間、白黒テレビを通して、見たこともないいろいろな体操や、競技などを見て驚きと感動を味わいました。東京オリンピックのレガシー（遺産）とは代々木体育館のようなハードな箱物ではなく、実はオリンピック後の「学校体育の多様化と充実」でした。

バレーボールや体操部などの部活動は1964年から全国に広がり、学校に体育文化が根付きました。日本独特の歴史です。ちなみにフランスとか英国では、学校に体育の時間がないところも多く、地域のスポーツクラブでスポーツをしています。

今年2020年のオリンピックのレガシーはどうなるのでしょうか

ひとつは「体育からスポーツへの変化」です。もうすぐ日本で「国民体育大会」はなくなり「国民スポーツ大会」になります。スポーツの概念は広く（健康を求める、参加して楽しむ、見て感動する、語り支え応援する）その中のひとつに体育が含まれると言う変化です。



もうひとつのレガシーは「学校体育からクラブスポーツの時代へ」という変化でしょう。朝練の廃止等、教員の働き方改革が叫ばれる一方、スポーツの専門性が求められる時代。さらに少子化でひとつの学校では、野球もサッカーチーム編成もできなくなってきた時代、スポーツは、地域のスポーツクラブでやる時代になるでしょう。

リリーでは試験的にヤマネ&リリースクエアで「スポーツ学童」を実施しています。今後のスポーツのあり方を模索する試みです。「いつもあたたかく いつもあたらしく」今年もがんばります。

